

令和7年度 きらめき未来塾 お笑い道場
～ユーモアのセンスやウイットに富んだ自己表現力を育てる～

講 師 フリーアナウンサー 牧内直哉 氏（社会人落語家 安野家仁楽斎）

参加者 小学4～6年生 20人

お笑い道場では「ことばあそび」をテーマに、短めの笑い話「こばなし」、問いに対して異なる意味の2つの言葉を掛ける「なぞかけ」、五七五の「折句」などに取り組み、発想力や表現力を磨きました。今年の参加者は“笑い”を取ろうと積極的に発言する子どもが多く、始終にぎやかで活気のある道場でした。

第1回：7月30日（水） 自由に自己紹介してみよう



先生の落語

先生が自己紹介として落語を披露し、声色や仕草に変化をつけたり、扇子と手ぬぐいを使って表現したりする面白さを伝えました。子どもたちも高座で自己紹介することになり、緊張していましたが、好きな物や将来の夢などについてみんなに伝えることができました。



子どもたちも高座で自己紹介

第2回：8月6日（水） 高座名の発表、「こばなし」「なぞかけ」をやってみよう



先生から高座名（芸名）をもらう

道場では、子どもたちの好みや夢などをもとに、先生が高座名（芸名）をつけてくれます。将来の夢は YouTuber の「人創亭 与打辺（ひとづくりてい ようつべ）」、相撲好きな「人創亭 冴乃山（ひとづくりてい さえのやま）」など、個性的な高座名が発表され、子どもたちから歓声が上がりました。

高座名をもらった子どもたちは、高座で「こばなし」に初挑戦しましたが、緊張や不安で話せない子も。特に4年生が苦戦する中、上級生の5、6年生がしっかりリードしてくれました。なぞかけは、お題「お花見」に「すもう」や「力士」とかけて「せきとり」など、一生懸命に頭を捻っていました。



こばなしの練習風景

登場人物ごとに顔の向きを変えること、仕草をつけることなどのアドバイスを受けました

第3回：8月12日（火） ユーモアを交えて表現してみよう

前は苦戦した「こばなし」でしたが、家でしっかり話を暗記・練習してきたようで、全員が高座でこばなしを披露することができました。今年はストーリーを自作する子もいて、一段とユニークな印象です。顔の向きを変えたり、扇子やてぬぐいを活かしたりする工夫もできるようになりました。折句やなぞかけも発想豊かになり、成長してきた様子。次回の発表会が楽しみです。



なぞかけや折句に頭を捻る

第4回：8月17日（日） お笑い大会（発表会）



堂々とこばなしを披露



大盛り上がりしたなぞかけや折句

最終回は高志会館で発表会です。舞台には金屏風を背景にした高座があり、観覧席にはたくさんの保護者が集まりました。

子どもたちはいつもよりずっと緊張していましたが、高座でこばなしを堂々と披露することができました。ユニークなこばなしに観客から笑い声や拍手が上がり、子どもたちも嬉しそうでした。なぞかけや折句では、全員が舞台に並んで発表しましたが、次々とユーモアあふれる発表をし、会場は大盛り上がりでした。

最後に先生から「修了笑書」を受け取り、みんなで記念撮影しました。最後までやり遂げた子どもたちは、達成感にあふれていました。



最後の記念撮影
達成感でいっぱい